

## 谷口まさのり所沢市政レポート

『2012年9月議会報告編』

連絡先：〒359-1151 所沢市若狭1-2961-1-213

電話：04-2941-5111 / FAX：04-2941-5112

・メール(パソコン)：[tani.eco@dream.ocn.ne.jp](mailto:tani.eco@dream.ocn.ne.jp)

・ツイッター：[twitter.com/#!/taniguchi1965](https://twitter.com/#!/taniguchi1965)

ツイッターは頑張って更新しております!! ・ホームページ：『谷口まさのり』で検索ください。



谷口まさのり

- ◆狭山ヶ丘中学校の学習環境格差是正(防音の為のエアコン設置問題)
- ◆西武ライオンズとのWIN-WINでのさらなる相互発展の取り組みに関する提言
- ◆『非常用発電設備の所沢市価格』の提言(水道部と市庁舎の工事価格比較)

私、谷口は9月議会において、議案に対する質疑、一般質問において発言致しました。詳細は中継録画で見られます。(『所沢市議会』で検索⇒『所沢市議会 録画中継』⇒『定例会9月』⇒ 9/19質疑、9/14一般質問)



### 1) 一般質問(主に市執行部に対し、事業等に関する質問)

- ① 今回は狭山ヶ丘中学校の学習環境格差是正(防音の為のエアコン設置)について、市長とのやりとりの要旨を中心に報告させていただきます。(詳細は中継録画の37分以降をご覧ください。)私自身は航空機騒音による『学習環境格差』を少しでも是正する為ならば、エアコン設置は必要ではないかという立場で活動しております。

(谷口): 今回の狭山ヶ丘中学校の防音対策の一環であるエアコン工事予算が計上されなかったが、今一度、その真意、判断根拠を簡潔に伺いたい。

(市長): 実は福島原発は関東の人々の為にあった。原発を生んだのは便利さや快適を求めてきた私たちの欲望であり、今こそ生き方や路線を変える時と考えたことが最大の理由。また過去の教員、卒業生に聞いたが、窓を開けて授業はできるとの意見だったこと。さらに費用対効果(工事費が暖房を入れて合計3.12億円、内冷房分は1.4億円)を考えた結果である。

(谷口): 今夏は東電管内では国民の努力等で原発ナシで乗り切った。また7/1から自然エネルギー買い取り制度が始まり、中・大規模レベルまでの太陽光発電が凄まじい勢いで計画が組まれ今後は導入が進んでいくと考える。さらに海上での大型風力発電も間違いなく今後数年後より設置が進んでいき、結論的には東電管内は原発ナシでも経済が回っていく状況になると考えられる。現状では原発事故で被害を受け苦しんでいる多くの国民の方がいることは事実であるが、今後は『発電』に関しては田舎の犠牲という概念自体がなくなりつつあるのではないかと。つまりは予算計上見送りの時点からの前提が変わりつつあるのではないかと。

(市長): そういう面かもしれないが、私にはそう思えない部分がたくさんある。自分は原発をおさえていく立場であるが、(自然エネルギーが普及するまで、その分を)暫くは火力発電に頼らざるを得ず、益々地球温暖化を配慮しなければいけなくなったと考えている。クーラーが電気式でもガス式でもあったとしてもである。

(谷口): この問題の本質は騒音による学習環境格差の是正である。この現状の騒音(レベル)について市長はどのように考えているのか?

(裏面へ)

(市長): 暑くない時期でも窓を開けて授業を行っている実態があると認識している。また9月に5日間騒音測定を行ったが、一般的にうるさいと言われている70デシベル以上(教師の声は65デシベル)は授業時間に限っては1日あたり21秒との結果であった。現在の状況は静かだとは思わないが、許容範囲と考えている。

(谷口): 市長は、70デシベルという絶対値を論点にしているが、WHO(世界保健機関)の騒音に対するガイドライン、学校環境衛生基準では窓を開けている場合は55デシベル以下、閉めている場合は50デシベル以下が望ましいと規定されており、『教師の声を聞きとるといった知的作業』においては教師の声と周辺の騒音の『差』は『少なくとも15デシベル以上』が必要であるとの見解である。これを踏まえた上での騒音に関する認識を再度伺いたい。

(市長): 望ましいレベルはそうであるが、随時、音が鳴り続けているわけではないので、学習環境に悪影響を与えるレベルではないと考える。

(谷口): 教師の声と周辺の騒音の『差』が『少なくとも15デシベル以上』必要ということなので、70デシベルを超える時間のみを論点とするのではなく、(15デシベルという、この差を認識しながら)70デシベル以下の部分の実態も併せて、トータルで定量的な議論をすべきと考える。また重要な意志決定時には実際に現場に出向き、実態を体感した上で、最終決断してもよいと考えるが、いかがか?

(市長): 当時、(補助金を予定通り申請するか否かの)決断は2週間以内にしなければならなかった。残念ながら決断後に実態調査をせざるを得なかった。本当は全部そこで(決断の前に)調査をやるべきであった。

(谷口): この様な質問をするのは本意ではないが、狭山ヶ丘中学校への冷房設備設置は、藤本市長が在職している限り、設置は100%ないということなのか?

(市長): (設置しない理由について、市長自身の考えを語るが、本質問については明確な答弁をいただけないまま時間切れで終了⇒その後、議場内が騒然となる・・・)

今回の質問は上述のような経過をたどり終了致しましたが、この問題は引き続き取り組んでまいりたいと考えております。



② その他の一般質問として、★『所沢市と同様にパリーグ球団の本拠地である千葉市のチームへの支援事例(千葉市以外からの転入者で希望者に抽選で観戦チケットプレゼントによる新たなファン拡大支援ほか)を紹介し、西武ライオンズと双方にメリットのあるような相互協力模索の為の定期的意見交換を提言』、★『非常用発電設備工事で、(工事内容の違いはあることは承知するものの)発電規模あたりの工事単価が3.7倍違う実例を導き出し、今後の適正価格決定手法の提言』、★『脱法ハープ対策』、★『若者の雇用対策(就職支援セミナーのプログラム改善提案)』を取り上げました。

\* 昨年4月の当選後、毎回の議会終了後に私、谷口まさのりの市政報告会を開催してまいりましたが、今年は決算委員会メンバーになっていること等、報告会の設定が日程的に難しかった為、今回は開催を見送ることになりました。ご理解のほど宜しくお願い致します。

◆ 谷口まさのり 経歴 ・昭和40年生まれ、埼玉大学 工学部 環境化学工学科卒業 ・栗田工業(環境系)や省エネのコンサル企業に計15年間在籍(技術営業) ・2011年4月 所沢市議選に当選(2,644票、みんなの党 公認) ・趣味等: スポーツ観戦、カラオケ、大のビール党 ・環境カウンセラー(環境省資格) / 社会保険労務士(年金・労働分野の国家資格)